矢崎ニュース

発行所
矢崎電線工業株式会社
総務部広報課
東京都港区芝田村町5の2
電話 芝(431)7171～9番

根を張る企業体制

総業・義塾・研究所発足

36年度代理店会議

■去る六月十三日から矢崎の全国代理店会議が西部地区をかわぎりに盛大に行なわれたが、常に前むきに飛躍している矢崎の姿に、すべての代理店の代表の人々も心から協力と尊敬の感にうたれたようだったが、とくに今年度のこの会議は、代理店も矢崎生活共同体のメンバーとして充分喜びを還元すべきであり、矢崎総業の代行支店と同じような評価の中でともに進んでゆく。さらに矢崎中央研究所・矢崎義塾を中心に高い技術とすぐれた根性ある人間を力強く育成していく点などが社長から力説されていたが、矢崎の企業体制がグット一歩深く根を下したというところ、これに応じてか誠光電機船越社長さんは、京都みやこホテルの会議の席上次のような挨拶をしていた。……「縁あって、矢崎の代理店としてむすばれ、非常に感激をおぼえている。そして、我々が発展するしないも、実は矢崎の人々の努力と双肩にあるわけで、もちろん我々の従業員もそれにかかっている。うるよい品を、安く売ることを通じて、代理店の繁栄もあり矢崎の発展もあるわけだが、どうか今後ともよろしくお願いしたい。……心にあこがれていた京都をみせてもらい寿命が五年も六年ものびた気がする」（大拍手……）代理店とか矢崎とかいうことをのりこえて、従業員を含めて、同じ運命と共同の責任があることを船越社長は説いていたが、ここに矢崎共同体の主旨があり、この代理店会議の真価が強く印象づけられた。■

挨拶する矢崎社長（京都みやこホテルにて）

なお会議における矢崎社長の挨拶の要旨は次のようだった。

「ちょうど本年は創立二十週年に当ります。当時をさかのぼれば、わずか一〇〇人たらずの人々だったのが、現在では五〇〇〇人を突破するに至ったが、これも皆様がたの協力のお蔭であり、今後も常に前むきに前進を続けたい、そしてこの二十週年を機会に、過去において、会社を愛し、純心な気持を捧げてくれた人々の功労とその関係者の人々に対しても心からむくい、ともに進みたい。

従って世間並の行事は一切せず、過去の影の功労者を顕揚する点にあらためた次第です。幸い、現在売上げも順調にのび、年を改めるごとに漸進しているが、今後は得意先の要望に答えるために、徹底したアフターサービスに重点をおく、ご案内の如く大阪支店も新築し、さらに広島、九州、四国支店と明年度までに完成する、すわって商売をするのでなくアフターサービスを通じて商道を確立、発展させたい。

次に過去二十年を振返って、今考えていることは、第一に企業のバランスをとること、さらに一歩進んだ人間の在り方を常にリードする技術を深く大きく発展させ、社会におくれぬよう、一般の科学水準の先頭に立つ体制をつくっていくことを計ることを中心にして進んでゆくことだ。

第一のものが、矢崎総業であり次が矢崎義塾であり、矢崎中央研究所である。

電線、計器、部品、鉱山、といろバラバラな企業があるわけではなく、常にお互いが良品、廉価を追求することはもちろんだ人間の在り方を常にリードする技術を深く大きく発展させ、社会におくれぬよう、一般の科学水準の先頭に立つ体制をつくっていく。

（西部地区を代表して船越社長の挨拶）

生活共同体で進む

鉱山も自信あり

さらに加えるならば、矢崎電線が鉱山をもったという事実である。ご存知のように、電気の文化が進めば進むほど、銅のバランスの在り方がくずれてきてしまった。これを前提として、日本の銅問題を考えるときに、三万トンの銅を国内で消費するとするならば国内産出銅は八千トン、あとの二万トン内外は外国に依存している。この結果、日本の銅の買付けがベラボウだとアメリカあたりから批難されている。このような状況下にあるときに矢崎鉱山も現在三〇〇万坪の鉱区に四十本からボーリングして充分成算をもつに至ったが、これは一矢崎企業のものだけでなく、いまのべた、外来依存――高価格という問題を解決するばかりでなく国内資源の開発という点からも大切なことであり、良品、廉価の基本線を実現するものであり、決してもうかるからなどという浮わついた気持ではない。さらにのべれば、古河は足尾があったので・電源開発などのお得意に対して電線をやった。住友も別子があったので電線をやった。銅が鉱山をもったにすぎないが、私は下からつきあげてゆき、電線事業は銅山を不可欠なものだという信念であり、軽薄な気持は毛頭ない。

以上のような体制のもとに今後とも、堂々と正しい商法を打出してゆきたい。

また沼津においても、今後は人造ゴム関係の専門工場つくり、時代の進展に対応した製品をつくることになっており、天竜、御殿場工場もさらに一段と整備してゆく、かくして大量生産体制を人員をふやさないでも充分できる段階になってきた。幸い東京電力・電源開発などのお得意に対してもブチルゴム関係も急増している折から、関西、関東東北、四国、九州その他の代理店の皆さんも、母店、支店の人々もともに希望と期待をもって、国際水準を追抜く努力と自信とをもって事に当って戴きたい。第一線のみなさんの従業員がしっかりして立派な会社のために命を捧げるような人々のために矢崎義塾がある以上充分期待と協力をお願い致したい。

悲しいとき、苦しいときも、また喜びも分ちあろ、これが生活共同体であり、サービスそのものもこの考えの結論にほかなりません。

（おわり）

（沼津洗心館での東・中部代特店会議）

矢崎義塾とは

矢崎義塾の目的を一言でいえば、社長のいう〝根性ある人間〟をつくるということになるが、具体的にいうと、知能、技術、精神とともに備えた人間を養成し、しかも、専門的かつ実際的に役立つ人間を作るということになる。しかし、そのようなことは、現在の社立学校でも志向している問題だと思われるが、それはさておき、現在の社立学校ブームというものは、いわゆる技術革新にともない、その中核ともなるべき技術者の不足は、どこの産業でも同じであり、そこでこのいわゆる最高発展している現実では、テンポの遅い大学や工業高校、さらに、政府の科学振興政策を待っているわけにいかない。そこで前に述べた三拍手そろった人間形成を作ってはじめてこれを他人にまかせられないから自分の企業中で養成する。これが日本の大企業の中にある社立学校の大半の目的のようだ。もちろん矢崎義塾もたしかに一面そのような時代的要請を受入れていることは事実である。しかし、塾頭もいっていたごとく「単に現実にさし迫った問題を解決するための手段として社員教育を行なうならば、それは木をみて森をみざるものといわざるを得ない」と痛烈に社員教育ブームに批判をあびせている。（新日本経済六月号）従って矢崎義塾を語る場合は、単に教育ブームにのった、あるいは中幹技術者養成のみの社立学校とは少し趣きが違ってくる。

それはさておき、先ず矢崎義塾は先にもちょっとふれたが、先ず道義と科学の統一の上に立ってすぐれた人材を、営生活、団体生活を通じて育成してゆくことを基本としている。しかも日常生活を通して、熟生と教官の人間的な交流を支えとして、自治、友愛、人格の相互啓発をはかり、きびしい訓練を経ながら進んでゆく一つの共同体である、ということで、生活即教育という制度を確立する。この制度は、戦後の外形だけの、内容のない、いわゆるアメリカ十日本流型民主教育の一つの修……つまり、最高の原則は、人間〟をつくるということに正をも期している。相手を尊重すること・決して妥協では・ない・という・私流にいえば、指導的民主教育をもその内容であり、「根性」ある人間もかくして形成されるものだということになる。従ってこのような目的をもった矢崎義塾が矢崎義塾であると考えてもよい。しかし、また戦前のよ・うな、科学性に欠けた狭い精神のみが独走するような教育ではないことはいうまでもな教育は徹底的に行なうが、しかし単に知識としてのみの教育ではないことは、明らかなことであろう。最後に矢崎義塾は、矢崎生活共同体としての必然的な帰結であり、矢崎の企業の本源的な目的の一つであるということを理解してもらったい。即ち同じ土俵の上で共に働く共同組織体の中にもあることは、いうまでもなあって、いわば経営者はリーダーであると同時に従業員からみれば一面、仲間（パートナー）―連帯性、同質性の上に〝最高の原則〟は高い倫理得るものだともいっている。

の仲間意識を土台とすれば、指導者は仲間のチーム（パートナー）の人間形成の先覚的役割を果すことが丁度、親父やオフクロが子供の教育に熱心になるようなものであり、自然の道とも解釈できる。さらに仲間（パートナー）たちの必要な技能や人間能力の開発を目的とする訓練を通じて仕事を中心とした旺盛な人間関係を秩序づけ、個性能力を十分発揮できるようにすることは一つの家庭と考える生活共同体にあっては必然的な論理であるということが出来る。家庭に多少経済力がついてきたので、子供たちに人間形成教育を何とかしてやりたいという親の――生活共同体リーダーの悲願？でもあり祈りでもある。かくて共同体はますます拡大され、創造されていくので、決してものだともいっている。最深化されていくので、決して道楽的、場当り的、消極的なことを理解して戴きたい。N